



平成28年5月6日

各位

株式会社 関門海
代表取締役社長 田中正
(コード番号: 3372 東証マザーズ)
問合せ先 最高財務責任者 関口弘一
電話番号 06-6578-0029 (代表)

特別損失（減損損失）の計上及び通期連結業績予想の修正、
個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成28年3月期第4四半期において、特別損失（減損損失）を下記のとおり計上するとともに、平成27年5月15日に開示いたしました平成28年3月期の通期の業績予想について修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また個別業績につきまして、業績予想の開示を省略しておりましたが、前期実績値との対比においてその差異が開示基準に達する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社の保有する固定資産のうち、将来の回収可能性を保守的に検討した結果、連結財務諸表および個別財務諸表におきまして新たに19百万円の減損損失を特別損失として計上いたしました。

2. 業績予想の修正について

平成28年3月期通期業績予想の修正

連結業績予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,450	230	160	70	7.07
今回修正予想 (B)	5,207	164	87	19	1.92
増減額 (B - A)	△243	△66	△73	△51	—
増減率 (%)	△4.4%	△28.4%	△45.3%	△72.8%	—
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	5,118	201	138	42	4.39

平成27年3月期（前期実績）の1株当たり当期純利益は、期中平均発行株式数により算出しております。

3. 業績予想修正の理由

連結売上高につきましては、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」においてインバウンド消費の拡大や法人営業の取組強化等により直営既存店売上高は前期を3.4%上回ったものの、その一方で、繁忙期における暖冬や天候不順による来客数の伸び悩みや新規出店の延期、連結子会社である関門福楽館の関門橋工事等に起因する売上不振等もあり、連結売上高は前回業績予想を243百万円下回る5,207百万円となる見込みであります。

また、連結営業利益は、繁忙期でのとらふぐ価格の上昇を見越しあらかじめ安価でとらふぐを一括仕入れること等により原価率の低減をはかったものの、とらふぐ相場の前予想以上の高騰や新たな季節メニューの上質化により原価率の上昇を吸収しきれなかったこと、販売費及び一般管理費においては、翌期以降のエリアFCの拡大に向けたFC加盟開発経費等の増加や営業強化を目的とした部署新設等などの本部機能充実を図ったことによる人件費等の増加等により前回業績予想を66百万円下回る164百万円、連結営業利益の未達に伴い連結経常利益も前回業績予想を73百万円下回る87百万円となる見込みであります。なお、上記記載の特別損失や店舗閉鎖損失20百万円を計上すること等により親会社株主に帰属する当期純利益は、前回業績予想を51百万円下回る19百万円となる見込みであります。

4. 平成28年3月期（通期）個別実績速報値と前期実績値との差異（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績数値（A）	4,387	220	170	65	6.77
今回実績速報値（B）	4,505	173	112	20	2.03
増減額（B－A）	118	△47	△58	△45	－
増減率（％）	2.7%	△21.2%	△33.9%	△69.1%	－

平成27年3月期（前期実績数値）の1株当たり当期純利益は、期中平均発行株式数により算出しております。

5. 差異の理由

個別の業績につきましては、売上高は主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」におけるインバウンド消費の拡大や法人営業の取組強化等により直営既存店売上高が増加したこと等により、前期実績数値を上回りました。一方、上記記載のとおり原価率の上昇を吸収しきれなかったことや、本部機能充実を図ったことによる人件費等の増加により営業利益、経常利益、当期純利益それぞれについて前期実績数値を下回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上